

平成 25 年 2 月 15 日

こんなことがありました。

2月5日商社の方が来社。まだ若い40代始めの方が単身赴任で山口に来ている。健康の話になり、実は破産しそうなのです。妻には送金していますが、蓄膿症と診断され毎日2,000~3,000円治療費がかかります。

私は「は、はーん」と思いましたので、（今、日本で蓄膿症が増えています）

「あなたは今、どんな家に住んでいるのですか」（某家具付のアパートに住んでいます）

「サッシの吸気口を開き、換気扇を一日中回していますか」（いいえ）

「家を出るとき、風呂やトイレの窓を開けていますか」（いいえ）

「風呂やトイレの換気扇を回していますか」（いいえ）

この方に、「どうすればその様な家で健康生活ができるかの注意点」を、お教えしました。

この会話でおわかりのように、今住んでいる家が、どのような材で仕上げられているか。又、日本は高温多湿の地域であり、カビが発生しやすい地域であることを理解されていない。そして、毎日帰宅した時にムワツとしているか、臭いはないのかなどチェックしてない。部屋の空気の中にカビやトルエン、キシレンやホルムアルデヒドなどが含まれていることも知っておくべきです。「家には対応すべき使い方がある」。空気はタダですが、その空気質をチェックするように心掛けて欲しいのです。それだけで十分予防になり、部屋の空気の管理は十分に行ってもしすぎることはありません。

（自分のため、家族のために）

このようなことが御社の社員の方に起こっていただければ大変です。御社の戦力が落ちますし、見込みある社員をダメにしてしまうかもしれません。その様にならないためにも、私どもの「住まい教室」を受講（無料）して頂き、住宅の接し方、考え方、そして重要な「住まいとは」「住宅を持つ目的は？」などをはっきりと自分のものにしておかれることが大切であると考えています。

以上、住宅と住み手との関係についてご報告申し上げます。

下関市長府港町 7-71
福利産業株式会社
代表取締役 松倉 守
TEL083-245-0181
FAX083-245-3590

おすすめする住まいは

通気断熱 WB 工法の家

形状記憶合金のバネを用いた装置を利用し、夏季は、通気口が開き外気を取り入れ、床から壁・天井に抜ける上昇気流を起こすことで、居室内の暑さや高湿度を解消し、冬季には、通気口が閉まり空気層となり2重の断熱効果を生みます。

この効果により、省エネやシックハウスの解消にもつながっています。

安心して住むことができる室内環境の家をお確かめ下さい。